

令和三年度第一回隊訓練



(発行所) 11特OB会
 (連絡先) 札幌市南区 真駒内17番地
 第11特科隊 広報援護室
 TEL (011)-581-3191 内線2645
 (印刷) 札幌造型合同会社



▲陣地進入する99式自走155mmりゅう弾砲



▲化学(防護マスクの装面動作)



▲観測(目標の標定)

隊は、令和三年四月十二日(月)から四月二十三日(金)までの間、真駒内駐屯地及び北海道大演習場(島松地区)において、令和三年度第一回隊訓練及び各種競技会を実施した。

隊訓練は、中隊以下の練成訓練により練度を向上させる目的で、各種競技会は、基礎となる部隊以下の基本的行動及び隊員の基礎動作に関する練度の向上並びに、部隊の団結の強化・隊員の士気の高揚を図る目的で行った。

四月十二日(月)及び十三日(火)、真駒内駐屯地において射撃指揮競技会を四月二十一日(水)、北海道大演習場(島松地区)において通信競技会及び基本基礎(対空MG、救急法、広域域多目的無線機(以下 広多無)、化学、歩哨)競技会を、四月二十二日(木)、同演習場において観測競技会を行い、各種競技会参加選手は中隊の名誉をかけ、年度当初から段階的に練成した成果を遺憾なく発揮した。

四月二十二日(木)の表彰式において「本競技会をもって、部隊の基本的行動・隊員の基礎動作について、中隊として練成していく基盤を得られたことと思う。隊としても、確認した良好な事項については、隊の訓練に反映する等、隊の精強化の資とする所存である。」との統裁官所見があり、各中隊は、中隊長を核とした部隊精強化に努めるべく気持ちを新たにしたい。



主な記事

- 二面 令和三年度第二回隊訓練
- 三面 令和三年度冬季山岳機動訓練(基礎)
- 四面 第百三十九期陸曹候補生履修前教育
- 五面 令和三年度新隊員特技課程及び一般陸曹候補生課程(後期)開始
- 六面 昇任者・転出者・新着任中隊長・転入者・退官者紹介

【隊長コラム】

オレは、I幹部になる！



平成八年十月五日、名寄駅に到着、そのまま駅にて大隊長に申告。自分の部隊勤務は、こうして始まった。そして名寄駅から名寄駐屯地までの約六キロをCGS出の大隊長、SLCの第一係主任とともに駆け足にて着隊、演習場整備で主力が不在にもかかわらず、大隊所属の隊員に迎えてもらい、うれしかった。

配置された中隊には、演習場整備には行っていない当直、臨時勤務で業務隊などに勤務している隊員のみがあり、着隊したものの、中隊も数年ぶりの幹部候補生、それも中隊長以外のBU幹部は大隊長という状況。くわしい案内や説明などは特になく、そもそも無理だった。

そうこうしてはじめての土日、生活隊舎で平穏な日曜日過ごしていたところ、午後になつて何やら騒がしくなった。演習場整備が終了し、少し早く中隊主力が帰ってきたのである。残留者相互では、そのような話もなく、戸惑い、右往左往している、ある二曹に「幹候！中隊が演習から戻ってきたら、全員で荷物あげるんだろ！」と厳しくお叱りを受け、面食らったと同時に、なんとも言えない情けなさを感じた次第である。自分の本音としては「聞いてなかったなあ、言っておいてくれれば！」着隊早々この洗礼かと悔しくなり、以降、中隊の動き、みんなで、という部分には周囲に乗り遅れないよう常に注意をするようになった。後にも先にも自分に幹部候補生、幹部として、叱ってくれたのは、この二曹のみであり、今の人々には理不尽に思えるかもしれないが、貴重な存在であり、今でも忘れはしない、感謝してもしきれない。とは言えその二曹ものちに幹部となった(落ち)。

そして●曹長とともに勤務していた幹部室にいよいよ先輩幹部が帰ってきた。先輩三尉は持続走も俊足で、銃剣道も猛者、スキーも抜群であった。これから自分なるだろう前進観測班長として、加えて射撃指揮の陸曹上がりであるため、戦技にも長けていた。そして、中隊で朝夕の集合時の日々の訓練指示、あらゆる隊員の勤務区分と細部の行動明示、各種教育や指導、何から何まで自分にはできないことばかりで、眩しくて自分には「I幹部＝英雄」であった。

加えて、訓練や整備での隊員との交わり、会話すべてにおいて、なんでこんなに掌握でき、こんなにもしろいのかと思うばかりだった。

そして、自分は「I幹部になる」と心に決めた。

その後、平成十七年八月、幹部候補生陸曹長として着任した中隊の中隊長を下番するまでの八年八ヶ月、人生の明暗、自衛官としての数々の経験を武器にI幹部になるべく精一杯努力した。中隊長下番により、中隊はもとより、名寄を去るに当たって「自分はI幹部になれたかなあ」と今一度振り返り感慨にふけていた。

その時、長年の陸士を経てようやく三曹となった古手の戦友が自分に問うてきた「中隊長はなんでCGSに行くんですか？」自分はなんでそんなことを思い「え？」とつぶやくと「だって、CGSって、BU幹部とかが行くもので、中隊長、I幹部でしょ？」と。

自分はこれまですっかりやってこれたのか、中隊長までやるべきことをやってこれたのか、CGSに行く、これで良いのか？と多々思うところがあったが、この一言でその不安は杞憂であると確信した。

中隊に着隊以来、色々なことがあったが、懸命に支えてくれた隊員のおかげでその時「オレは、I幹部になった！」と心から感謝した。

令和三年度第二回隊訓練

隊は、六月二十七日(日)から七月八日(金)までの間、北海道大演習場(島松地区)において、令和三年度第二回隊訓練を実施した。

本訓練では、実射検閲受閲に向け、今年度最初の隊実射練成のほか、砲班競技会及び火砲整備競技会を行うとともに、第一・二中隊訓練検閲を行った。

実射練成においては、各火砲の特性を把握するための射撃のほか、旅団の作戦・戦闘における、特科隊主力をもって火力発揮する場面を想定した訓練を行った。

競技会においては、各射撃中隊の砲班計九コ班が参加し、陣地の偵察・占領及び射撃を課目とした砲班競技会、火砲の故障箇所を探索する火砲整備競技会を行い、所望の練度の向上と、隊員の士気の高揚を図ることができた。

第一・二中隊訓練検閲においては、旅団の作戦・戦闘における普通科連隊に協力する特科中隊として、中隊長の部隊運用指揮、健在性を保持した特科中隊の基本的行動、隊員の基礎動作を着眼として実施した。第一・二中隊ともに、中隊長の指揮のもと、整齊円滑な陣地進入、敵先遣部隊に対する火力発揮等、あらゆる困難を克服して任務を完遂した。隊は本訓練を通じて所望の成果を得て訓練を終了した。



▲林内からの実弾射撃



▲対遊撃



▲命令下達(第二中隊長)



▲弾痕解析



▲陣地進入

第二中隊訓練検閲



▲対空戦闘



▲命令下達(第一中隊長)



▲車両による陣地の安全化



▲陣地進入

第一中隊訓練検閲



▲陣地進入



▲陣地偵察



▲射撃



▲統裁官による顕賞板授与

砲班競技会



▲砲塔部のオイル点検



▲統裁部からの状況付与



▲車体部の点検



火砲整備競技会



▲優勝した第一中隊第二砲班等一同



▲寺本氏より激励品の贈呈

十一特OB会は、令和三年六月二十四日、特科隊グラウンドにおいて、令和三年度砲班競技会及び火砲整備競技会の実施にあたり激励品を贈呈した。

十一特OB会による 競技会激励品の贈呈

令和三年度 冬季山岳機動訓練 (基礎)

隊は、六月七日(月)から六月十一日(金)までの間、真駒内駐屯地及び北海道大演習場西岡地区において、令和三年度冬季山岳機動訓練(基礎)を実施した。本訓練は、山岳機動要員の練度の維持・向上を図るとともに、今年度から初めて参加する山岳機動要員四名に対し、基礎的知識及び技能を付与する目的で、ロープ結索法、懸垂下降、戦闘懸垂下降、ローワーダウン、登高法及び引き上げ訓練を行った。

訓練間は、冬季山岳機動を想定し、段階的に山岳機動及び遭難者の救出・救助に必要な基礎技術を習得するとともに、指導者としての能力を向上させた。また、初参加の隊員からは「緊張感をもって山岳機動訓練に参加したが、非常に良い経験になった。冬季の応用訓練に備え、技術面及び体力面についてしっかりと準備していきたい。」等の声があり、大変実りのある訓練となった。



▲懸垂下降



▲要救助者の引き上げ



▲登高法(女性自衛官の参加は隊として初)



▲ロープ結索法

令和三年度 演習場春季定期整備

隊は、令和三年五月六日(木)から五月十二日(水)までの間、北海道大演習場島松地区及び真駒内射場地区において、令和三年度演習場春季定期整備を実施した。本演習場整備は、訓練基盤の充実及び旅団の作戦運用の実効性向上に資する目的で行われ、真駒内射場地区では、第二基本射場の停弾面補修、射座の整備、場内の除草及び側溝の整備を行い、北海道大演習場島松地区においては、二翁台火砲陣地の支障木伐採、火砲進入路及びためますの整備のほか、観測所(一の森)の整備、弾着区域内の不発弾搜索、野焼きなどを行った。

また、隊務の総合一体化の取組みとして、若年隊員を長とした指揮・指導により、実員指揮能力の向上を図るとともに、射撃中隊の隊員による野外炊事を行い、中隊が独立して行動するために必要な野外炊事能力を向上させた。演習場整備間、隊長要望事項「あらゆるリスクを『予測して排除』そして『万が一の保障』」、「心と体の健康管理」に基づき、隊員一丸となって整備を行い、一件の事故もなく任務を完遂した。



▲方面総監による現地指導(二翁台)



▲不発弾搜索(島松地区)



▲側溝の整備(真駒内射場地区)



▲野外炊事

叙位及び死亡叙勲に 関する手続きについて

自衛隊員として勤務され、在職中の功績と一定の要件が満たされた方は叙勲の対象となります。特に死亡叙勲は、ご遺族からの申し出によって手続きを進める事になります。この期間が限られており、この期間を過ぎますと叙勲が受けられなくなります。万が一ご本人がご逝去された場合は、死亡日を含め五日以内に最寄りの防衛省各機関、部隊等へ連絡下さいますことをご家族皆様へお伝えいたたくようお願い申し上げます。

電話〇一一一五八一―三一九一
(内線二六四五) 担当 天野

第百二十九期陸曹候補生課程 履修前教育総合訓練

隊は、六月十日(木)及び六月十一日(金)盛夏を思わせる連日気温二十五度を上回る中、北海道大演習場西岡地区において、第百二十九期陸曹候補生履修前教育総合訓練を実施した。本訓練は、小部隊の指揮官としての状況判断力及び指揮能力について、履修前教育間に培った成果を確認する目的で行われ、隊長、教育隊長、隊最先任上級曹長及び各中隊長等が視察・激励した。

各陸曹候補生には、分隊長以下の役職が与えられ、十日(木)、小隊命令受領後、前衛分隊の行動に引き続き、集結地の占領、斥侯としての偵察活動を行うとともに、集結地において偵察結果を報告して攻撃命令下達、砂盤による戦闘指導及び戦闘予行を行った。

翌十一日(金)の早朝からは、敵陣地を攻撃し、以後、目標を奪取して任務を完遂した。総合訓練終了後、教育隊長は「これで終わりではなく、この履修前教育期間、習得した事項をお互いに確認し合い、しっかりと知識として自分のものとせよ。」と訓示するとともに、陸曹候補生達は「同期との絆も深まり、團結して任務を完遂することができた。入校しても同期との絆を大切にしつつ教育にまい進したい。」と、入校へ向け、気持ちを新たにしたい。



▲突撃発起位置までのほふく前進



▲たい土を使用した敵情の確認

沖邑北部方面総監部隊等 視察に伴う儀じよう

隊は、六月二十二日(火)真駒内駐屯地旅団司令部庁舎前において、沖邑北部方面総監部隊等視察に伴う儀じようを実施した。本儀じようは、儀じよう小隊長以下約三十名をもって編成し、来駐された沖邑北部方面総監に対して、荣誉礼を行う機会を得た。

隊は本儀じように際し、約五十名をもって、六月七日からの約二週間におたつて練成を重ね、隊一丸となつて準備を万全にし、儀じよう本番を迎えた。儀じよう実施間、隊員は士気旺盛にして姿勢を保持し、斉一な動作、鋭い眼光により、威容を示して、任務を完遂した。

儀じよう終了時には、沖邑北部方面総監から小隊長に対して慰労の言葉と総監メダルが手渡され、隊員一同の士気も大いに高揚した。



▲儀じよう小隊長への慰労



▲荣誉礼



▲巡閲

十一特OB会 新隊員への激励品の贈呈

十一特OB会は、令和三年七月十五日、特科隊グラウンドにおいて行われた特科隊朝礼にて、新隊員特技課程及び一般陸曹候補生課程(後期)の新隊員に対して、激励品を贈呈した。当初、新隊員は一人ずつ壇上上がり、それぞれが個性豊かな自己紹介を行い、特科隊の隊員が見守る中、心気充実した姿を見せた。紹介後、十一特OB会を代表して代表幹事寺本氏から、激励品を贈呈するとともに、「暑さに負わずに頑張つて下さい」と激励し、新隊員全員から、大きな「ありがとうございます。」が響きわたった。



▲激励品の贈呈



▲OB会を代表して新隊員を激励 (寺本氏)



▲部隊と新隊員相互に敬礼



▲個性豊かに自己紹介をする新隊員



七月昇任者

三等陸佐へ

飯田 好貴 (隊本部)

一等陸尉へ

原 冬樹 (隊本部)

二等陸尉へ

松村 憲吾 (第二中隊)

三等陸尉へ

皆川 学 (本部管理中隊)

陸曹長へ

金子 辰徳 (本部管理中隊)

一等陸曹へ

旗本 哲也 (本部管理中隊)

菅原 安正 (本部管理中隊)

二等陸曹へ

小池 将吾 (本部管理中隊)

松井 秀樹 (本部管理中隊)

矢野 卓 (本部管理中隊)

三等陸曹へ

鈴木 嘉恵 (本部管理中隊)

三上 敬司 (第二中隊)

八月転出者

第一中隊長 (第八代)

三等陸佐 工藤 一成

本部管理中隊

二等陸曹 小池 将吾

特科教導隊 (富士) へ

三等陸曹 五十嵐 亮
東北方面特科連隊 (郡山) へ

第一中隊

二等陸曹 菊池 文夫
富士学校 (富士) へ

二等陸曹 松澤 寛幸
滝川駐屯地業務隊 (滝川) へ

三等陸曹 崎山 拓祐
第一特科隊 (北富士) へ

第三中隊

二等陸曹 久保 雄太
第十一旅団司令部付隊 (真駒内) へ

二等陸曹 茂木 雅靖
警務隊 (真駒内) へ

三等陸曹 石川 拓巳
警務隊 (真駒内) へ

警務隊 (真駒内) へ

警務隊 (真駒内) へ

新任地での活躍を 祈念いたします。

八月転入者

第九代 第一中隊長

谷一尉 着任



一等陸尉 谷 敏臣
前勤務地 第二地对艦ミサイル連隊 (美唄)

本部管理中隊

陸曹長 市田 由理佳
第二百十教育大隊 (真駒内) より

陸曹長 津久井 源揮
武器学校 (土浦) より

陸曹長 宮崎 誠
第二特科連隊 (旭川) より

一等陸曹 藪本 正雄
札幌地方協力本部 (真駒内) より

一等陸曹 青山 茂樹
第二特科連隊 (旭川) より

二等陸曹 力田 美幸
西部方面特科連隊 (玖珠) より

第一中隊

一等陸曹 木下 盛利
北恵庭駐屯地業務隊 (北恵庭) より

二等陸曹 日高 雅光
西部方面特科連隊 (玖珠) より

第二中隊

三等陸曹 松村 誠
特科教導隊 (富士) より

第三中隊

二等陸曹 三枝 健太郎
第一特科隊 (北富士) より

二等陸曹 藤本 宏敬
冬季戦技教育隊 (真駒内) より

三等陸曹 野地 翔太
中部方面特科隊 (松山) より

三等陸曹 浅見 隆介
第一特科隊 (北富士) より

これからよろしく
お願いいたします。

定年退官者



大窪曹長
3. 4. 3付
(札幌市白石区)



比嘉曹長
3. 5. 7付
(札幌市中央区)



佐藤曹長
3. 5. 26付
(札幌市西区)



前阪准尉
3. 7. 3付
(札幌市厚別区)



村田准尉
3. 7. 19付
(札幌市中央区)

OBの方へ連絡

OB会総会及び懇親会
中止についてご報告

日頃より本会の活動にご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。本年度も新型コロナウイルスの拡大防止のためOB会の総会及び懇親会を中止させていただきます。後日、改めて黒田会長よりご連絡させていただきます。また、併せて令和三年度決算報告及び令和四年度予算案をお送り致します。まだまだ先の見通しづらい状況ではありますが、ご自愛のほど心よりお祈りしております。

代表幹事 寺本 充幸

第二十一特科隊創隊記念行事 開催中止についてご報告

謹啓 盛夏の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は第二十一特科隊に対する、格別のご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。さて、新型コロナウイルスの感染状況につきましましては、政府や北海道等による感染拡大防止の措置、対策が講じられるとともに、全国各地でワクチン接種が開始されるなど、明るい兆しも見受けられますが、未だ終息には至っておりません。このようななか、第二十一特科隊におきましては、新型コロナウイルスに対する感染防止に万全を期し、各種訓練の実施、防衛警備等の態勢を維持しているところではあります。この度、令和三年度第二十一特科隊創隊記念行事につきましまして、昨今の情勢等を鑑み、誠に残念ではございますが、開催中止の判断を致しました。また、これ以降の各種行事等につきましても、今後の社会的な動向を踏まえつつ、改めてご報告させて頂く所存でございますので、何卒ご理解のほど、宜しくお願い致します。皆様におかれましては、ご健康に留意されますとともに、ご自愛専一にお過ごし下さいませ。心よりお祈り申し上げます。今後とも、第二十一特科隊に対する変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

第二十一特科隊長 廣岡 睦